

第12回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成29年2月28日(火) 午後1時50分～(新年度予算記者発表終了後)
- 開催場所 遠軽町役場3階第3会議室
- 記者数 7人

報道機関の皆様におかれましては、日頃より町政など地域の情報を町民にお届けいただき、心からお礼申し上げます。

それでは、今回の議題についてご説明申し上げます。

■平成29年第2回 遠軽町議会（定例会）に提出する案件から

・補正予算について

丸瀬布地域の上武利地区にあります旧武利小学校の改修工事の予算について、繰り越し明許に関わるものでございます。

■旭川紋別自動車道 丸瀬布IC・遠軽瀬戸瀬IC間の開通について

これは3月19日、午後3時に開通いたします。

この日は、網走開発建設部により記念式典が行われるほか、実行委員会による開通記念ウオーキングイベントを開催いたします。

このイベントは、遠軽町・湧別町・紋別市の住民を対象としております。このたび開通する遠軽瀬戸瀬ICをスタートし、途中で折り返す約5キロメートルを歩くものであります。

終了後には参加者の皆さんに「白滝じゃが」のいも団子が入った「北大雪鍋」を振る舞うほか、参加記念品と、セトセ温泉ホテル様の協賛をいただきまして、同ホテルの入浴券を贈呈いたします。この瀬戸瀬温泉というのは、この間、楽天の秘湯ランキングで全国4位になりました。

申し込みは電話により明日3月1日から先着順で受け付けまして、定員になり次第締め切りとさせていただきます。開通後には歩く事が出来ない貴重な景色をぜひ、お楽しみいただきたいと思っております。

さらに、今後、整備が予定されております遠軽ICのオープンに向けて、スキー場と一体となった道の駅の整備も進めて参ります。

■（仮称）えんがる町民センターについて

文化センターの機能を担う福祉センターの建て替えにつきまして、現在、用地の取得や、施設的设计などの準備を進めているところであります。

さらに、センターの設計に、町民の皆さんの意見を反映させるため「建設検討協議会」を設置し、昨年12月から1か月に1回の会議を行っております。

会議では、現在の建設計画について示すとともに、利用目的やメインホールの規模などについて意見をいただいております。

遠軽町のシンボルとして、皆様に愛される施設となるよう、準備を進めて参ります。

なお、このセンターの基本・実施設計につきましては、公募型プロポーザルにより「石本建築事務所・日本都市設計共同企業体」を委託事業者として決定しております。

この施設は、先ほどもありましたけれど相当大きいという事で、駐車場もある程度広くなければいけないという事です。しかしながら、遠軽町は、中心市街地に大きな土地が無かったのですが、何とか駅前土地を確保してやっております。いま決定した土地のほかには、福路という球技場を造った用地でも良いのではないかという意見の大きく2つに分かれましたが、中心市街地の活性化等を含めて街の中に建てるという事で決定をいたしました。

その代償として、用地の狭さというのがありまして、ここを少しでも用地を確保しながら建物の設計、どういう風に建物を造るか、どういう要件にするか、そして新たに将来に向けて用地が購入できるに越したことはないですから、そういうものも含めながらやっているというところでございます。

■遠軽厚生病院産婦人科医師確保の取り組みについて

この取り組みにつきまして、遠軽地区総合開発期成会の「遠軽地区地域医療対策連携会議」では、昨年12月21日から27日までの1週間、埼玉県大宮駅から神奈川県横浜駅を往復するJR東日本の京浜東北線10両1編成の全車両に、医師募集の中吊り広告と、ドア横に遠軽地区のPRポスターを掲示いたしました。

加えて12月21日には東京都内で記者会見を開きまして、報道関係者に対して地方の医師が不足している窮状を訴えたほか、翌22日発売の週刊誌にインタビュー記事を掲載したところであります。

また、1月21日と22日には、週末の応援医師派遣が初めて行われました。この派遣は、同会議がこれまで医師派遣の要請を行ってきまして東京都内の病院から行われたものでありまして、引き続いて派遣をお願いし、さらには常勤医師の派遣へとつながるよう継続して要請を行って参りたいと考えているところであります。

2月1日には、湧別町長、佐呂間町長とともに厚生労働省におもむき、連携会議の取り組みを報告するとともに、医療制度改正等について要請を行いました。

この日は、昨年に続きまして、厚生労働大臣に直接要請する機会をいただき、塩崎大臣からは「今後も医療制度改正に取り組んでいく」とのお言葉があったところでございます。

いま1人、医師が来てくれております。応援医師も何とかお願いしておりますけれども、こういったことを続けていっても、いついなくなるかわかりません。これは産婦人科に限らず、国としてしっかり地域医療の制度をつくらせていただきたいということが一番大事なことだと思っております。そういったことから京浜東北線にポスターを出している訳です。これはあくまで国でつくってもらわないと、我々がここで話しても、誰も決定権が無いし道庁に言っても、なかなか難しい話です。そういった意味で人口集中しているところで訴えていかなければならないということでやっております。そういったことから、塩崎大臣からもそういったお話もいただきました。厚生労働審議会におきまして、我々がずっと言っていたことが乗ってきておりますので、これからも根本を変えるんだということをやりたいと思っております。

今後も産婦人科医師3人体制、元に戻すということについて継続的に取り組んで参ります。

遠軽厚生病院の診療体制につきまして、4月1日から小児科の医師が現在の3名から2名になると、耳鼻咽喉科が現在の2名から全て派遣医師になると連絡を受けているところでございます。

産婦人科と同様に旭川医科大学医局の医師不足が原因であります。住民に負担のかからない診療体制となるよう要請を行っているところでありますので、お話をさせていただきます。

このほか、乳腺外来というのが新しくやるという話も来ております。

■丸瀬布厚生病院の無床診療所への転換について

平成30年4月1日から、丸瀬布厚生病院を無床診療所に転換する旨、2月7日に北海道厚生連から通知がありました。

遠軽地区の地域医療の継続的な確保と経営の安定化を進めるためには、丸瀬布厚生病院の無床診療所への転換が最も効果のある経営対策であるとの結論から、同厚生連理事会で決定されたとのことであります。

本町はこれまで、丸瀬布厚生病院に対して運営費の損失の負担、医師配置負担金、建設費の補助金など支援を行うとともに、平山院長が65歳の時に70歳までの定年延長を北海道厚生連にお願いいたしまして延長しておりました。そういった意味で丸瀬布地域の医療充実に町として努めて参りました。

今後は、診療体制の維持や入院患者の対応及び従業員の雇用の確保等について適切に行われるよう、北海道厚生連に対して要望していきたいと考えております。

■協定の締結について

はじめに「高齢者等の見守り支援に関する協定の締結」についてであります。

高齢者等が社会から孤立、無縁化が取りざたされている中、本町では住民や地域そして企業等の支援を得ながら、社会全体で地域を支えるシステムを作るために、高齢者等の住民について、何らかの異変に気付いた時は町などに連絡してくださいというふうに、民間事業者等と協定を締結し、見守り支援に取り組んでいるところでございます。

これまで、平成25年6月に「コープさっぽろ」、そして町内の「北海道新聞各販売店」と協定を締結しております。昨年12月には「遠軽信用金庫」及び「株式会社セブン-イレブン・ジャパン」と協定を結びました。そして、2月13日には総合警備保障会社の「アルソック北海道株式会社様」と協定を締結することができました。このことで、さらに高齢者等の見守り体制の強化を図っていききたいと考えております。

次に「災害時の物資供給及び店舗営業の継続又は早期再開に関する協定について」であります。

これは昨年12月に「株式会社セブン-イレブン・ジャパン様」と協定を締結し、災害時における飲食物や日用品の供給、店舗の早期営業と継続についての協力を確認したところであります。

こういった協定をはじめとして、民間事業者の皆様のご協力をいただきながら、さらに災害に強いまちづくりを進めていきたいと思っております。

■安国浄水場について

平成27年度、28年度で施工して参りました安国浄水場が3月に完成いたします。

この浄水場は、平成24年の調査開始から約8億円を費やし、水源を河川から地下水に切り替えるもので、1日の最大給水量も160トンから250トンに増量されます。

現在、新たな浄水場施設として新年度4月からの稼働を目指して、今施工中であります。

これまで大雨や融雪時には、濁りがひどく、水道水として使用できないことがたびたびありましたが、この浄水場が完成することによりまして、今後は住民の皆さんに安定した水道水の供給が図られるものであります。

これは昨年の秋には旧生田原町、今の生田原地域で5億数千万円かけて同じく水道浄水場を新しく造りました。旧遠軽町以外は雨がどんどん降ると水が濁るのが当たり前だった。私も合併してそういったものを見て、これは何とかしなければいけない。水を確保するというのは行政のいろはの「い」の仕事です。しかし残念ながらそこが実施されていなかった中で、財政的に力が付いたときにやらなければいけないと思っており、これを実施いたしました。昨年大雨の時には、その前に生田原の浄水場が完成していて、安国は給水停止になるところでしたが、生田原から水を運んで事なきを得て、遠軽地域も危なかったのですが、生田原から水を運びました。そういったことがこれからはますます想定されますので、水の確保というのは、非常にお金のかかることですが、しっかりやっていきたい。いま、白滝地域

でも同じことでありまして、水源を探しながらやっているところでもあります。これも国の制度が非常に絡んでおります。小さいところの水道は簡易水道といいますが、合併したところは一つで1か所だという話になりまして、活動した結果、国の補助も受けながらやっていけるようになったというところでもあります。

■1964東京オリンピック遠軽町展示林活用検討会議について

北海道家庭学校の敷地内には、昭和39年に開催された東京オリンピックの際に、各国の選手たちが樹木の種子を持ち寄り、このうち北方系のものを試験機関で苗を育てて、昭和43年に同校の山林に植樹した「展示林」がございます。

この展示林につきまして、来る「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」に向けての活用を検討するため、北海道家庭学校、網走西部森林管理署、オホーツク総合振興局とともにこの検討会議を設置したものであります。

今後は、東京2020大会へ働きかけるとともに、観光資源や環境保全などへの活用について取り組みを進めることとなりました。

スポーツの祭典を通じて、長い年月をかけて育った樹木を大切に活かしていきたいと考えております。

■えんがる球技場について

遠軽町福路地区に完成した「えんがる球技場」が、4月にオープンいたします。完成は昨年11月にしておりました。

町内には、天然芝生の球技場が3か所ございますが、当町にはラグビー等の合宿が非常に多く来ております。利用時期の集中に加えて、雨天時でも使用しなければならないため芝生が傷むほか、日照りが続くと散水をしなければなりません。芝生の維持が困難な状況にありました。

使用状況や天候の影響を受けにくい、この球技場を天然芝生の球技場と併せて活用することで、効率の良い施設運用ができます。

また、この施設を皆様に活用していただくことで、サッカーやラグビーを中心に、子どもから大人までのスポーツ活動の底上げ、新たなレクリエーションの展開などを期待するとともに、合宿環境の充実による経済効果、町内スポーツ団体や子どもたちとの交流によるレベルの向上も期待されます。

なお、この施設のオープンを記念して、5月にはサッカーやラグビーの経験がない方でも気軽に参加できるイベントを予定しておりますので、多くの皆様にご参加いただき、この球技場を体感していただきたいと思っております。

合宿については、ラグビーは遠軽高校が強豪であります。合宿には、全国から高校生が多く来ます。網走市や北見市と違って、実業団、トップリーグはホンダの1チームだけ、大学は1校だけということです。トップリーグの選手が来ると経済効果がすごいのですが、遠軽町はこの遠紋地区で遠軽高校を中心にした教育ということになりますので、これを支えていくためにも高校生を中心にやっております。

■ファーイーストカップ大会について

3月8日から10日まで、国際スキー連盟公認のアルペンスキー大会「ファーイーストカップ」、ワールドカップの下の大会になります。ワールドカップに出たい選手がこういった大会で世界を回ってポイントを取って出ていくという大会ですが、「遠軽信用金庫杯」これは大回転、「デサントカップ」これは回転、「アトミックカップ」これも回転で、3日間レースを行います。えんがるロックバレースキー場を舞台に行いまして、150人ほど出場する予定になっております。特にその中で、直近の情報ではコーチ選手を含めて60数人外国人

が来るということで、これは遠紋地域で、旅行ツアーでない限り、外国人がこれだけ来るとするのは初めてのことだと思います。担当の教育委員会も通訳を探すのに大変なようでございます。

一流の選手たちの滑りを間近に見られる絶好の機会ですので、多くの皆様に応援をいただきたいと思います。

また、この大会の開催にあたりまして、陸上自衛隊遠軽駐屯地と大会支援についての協定を締結しておりまして、事前の会場設営や当日の旗門審判員、記録員などに延べ250人を超える支援をいただいております。

なお、この大会、3年間は実施したいと考えておりまして、長野オリンピックの後、長野県で開催されていましたが、北海道に持って来て、札幌でやったあとの遠軽に来るということでございます。

私からは以上です。